

(別添)

2019年12月19日

N I T E ( ナ イ ト )

独立行政法人製品評価技術基盤機構

中 部 支 所

# News Release

## 点検しましょう。ほこりを払ってキレイに年越し ～5年で33件、配線器具の火災事故～ ～ 東海4県版 ～

NITE（ナイト）に通知のあった配線器具による製品事故情報<sup>※1</sup>は、東海地方4県（静岡県、愛知県、岐阜県及び三重県）において2014年度～2018年度の5年間に合計51件<sup>※2</sup>あり、そのうち火災が半数以上の33件（65%）ありました。

配線器具の火災は差込口やその周辺にほこりをためない、水気のある場所での使用を控えるなど、使い方において注意すべき点があります。年末の大掃除の際に、ほこりを払ったり、配線器具を点検したりするなどして、事故を未然に防ぎましょう。

### 1. 配線器具による製品事故発生状況

#### (1) 各県の年度別 事故発生件数

表1に配線器具による製品事故の「県別」及び「年度別」の事故発生件数を示します。

表1 「県別」及び「年度別」の事故発生件数（単位：件）<sup>※3</sup>

年 度	静岡県	愛知県	岐阜県	三重県	合 計
2014 年度	3 (3)	3 (3)	4 (1)	0	10 (7)
2015 年度	0	3 (2)	4 (1)	2 (2)	9 (5)
2016 年度	1 (1)	5 (1)	2 (1)	1	9 (3)
2017 年度	0	5 (5)	6 (3)	4 (4)	15 (12)
2018 年度	3 (2)	1	2 (2)	2 (2)	8 (6)
合 計	7 (6)	17 (11)	18 (8)	9 (8)	51 (33)

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

(※2) 2019年11月30日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(※3) ( )は火災件数。

## (2) 各県の被害状況<sup>※4</sup>別 事故発生件数

表2に配線器具による製品事故の「県別」及び「被害状況別」の事故発生件数を示します。

表2 「県別」及び「被害状況別」の事故発生件数（単位：件）<sup>※3</sup>

被害状況 <sup>※4</sup>		静岡県	愛知県	岐阜県	三重県	合計
人的被害	死亡	0	1 (1)	0	0	1 (1)
	重傷	0	1 (1)	0	0	1 (1)
	軽傷	0	2 (1)	0	0	2 (1)
物的被害	拡大被害	6 (5)	11 (7)	13 (7)	8 (7)	38 (26)
	製品破損	1 (1)	2 (1)	5 (1)	1 (1)	9 (4)
被害なし		0	0	0	0	0
合計		7 (6)	17 (11)	18 (8)	9 (8)	51 (33)

(※4) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

## (3) 各県の製品別 事故発生件数

図1に配線器具による製品事故の「製品別」及び「火災（内数）」の事故発生件数を示します。

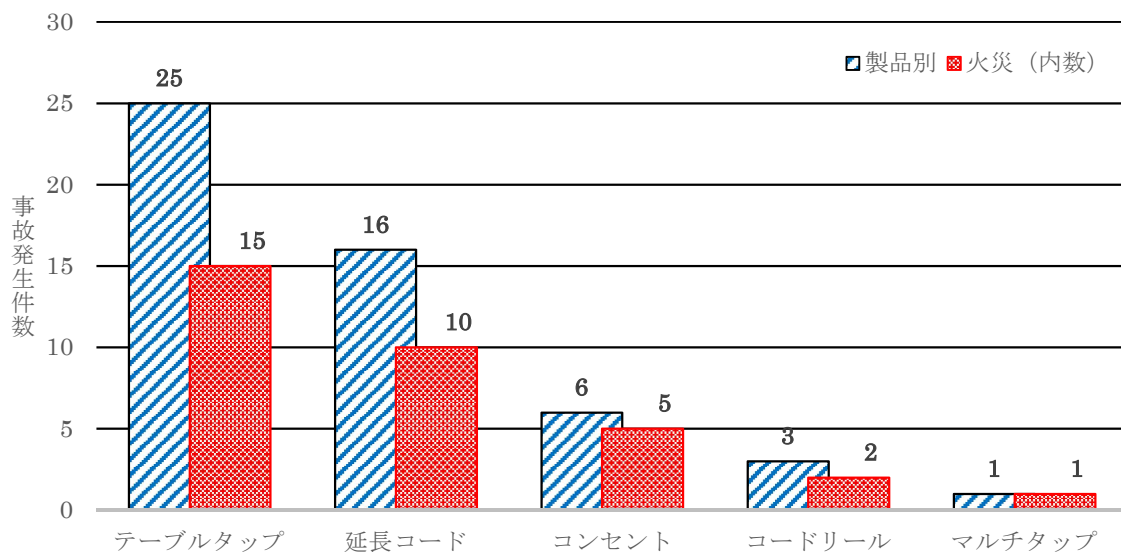


図1: 「製品別」及び「火災（内数）」の事故発生件数

## 2. 配線器具による製品事故の事故事例

### (1) 配線器具：テーブルタップの事故

2014年9月（愛知県、40歳代・女性、拡大被害）

**【事故内容】**

テーブルタップ及び周辺を焼損する火災が発生した。

**【事故原因】**

テーブルタップは、タップ内部に塩分を含む異物が入ったため、内部でトラッキング現象が生じて出火に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「水のかかる場所では使用しない。水・洗剤等に浸った場合は新品に交換する」旨、記載されている。

### (2) 配線器具：コードリールの事故

2015年2月（静岡県、年代・性別不明、拡大被害）

**【事故内容】**

使用中のコードリール付近から出火し、建物を全焼した。

**【事故原因】**

コードリールはほとんど巻き取られた状態であり、巻き取り時の定格電流値を超える電気製品を接続して使用したことから、過電流によりコードが異常発熱し、短絡・発火したものと推定される。

### (3) 配線器具：延長コードの事故

2018年1月（三重県、40歳代・男性、拡大被害）

**【事故内容】**

延長コード付近から出火し、周辺を焼損した。

**【事故原因】**

延長コードが扉に挟まれていたため、芯線が断線して短絡・スパークが生じて焼損したものと推定される。

### (4) 配線器具：テーブルタップのリコール製品による事故

2019年1月（岐阜県、年代・性別不明、拡大被害）

**【事故内容】**

延長コードのマルチタップの根元から火が出て、周辺を焼損した。

**【事故原因】**

プロテクター部の樹脂材料（塩化ビニル）の柔軟性が低いこと、及びプロテクター部の形状、肉厚の影響等により、プロテクター先端部に集中的に曲げ応力が加わり、断線・スパークが生じたものと推定される。

**【再発防止措置】**

輸入事業者は、2015（平成27）年に新聞及びホームページに社告を掲載するとともに、店頭告知を行い、製品の回収及び返金を行っている。

### 3. 配線器具による製品事故の実験映像について

配線器具による製品事故の再現実験映像及び静止画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

#### ■映像の提供について

提供する映像へのクレジットは「製品評価技術基盤機構+nite ロゴ」としてください。



写真 静止画例

**(本件に関するお問い合わせ先)**

〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-1 名古屋合同庁舎第 2 号館

独立行政法人製品評価技術基盤機構 中部支所

支所長 葛谷 弘之

担当者：技術課 酒井、横田、齋藤

電話：052-951-1933 FAX：052-951-3902

以上